

性とセクシャリティの
とりどり
に寄せて
にじいろBiwako

3. そもそもLGBTQ+って?

NPO法人にじいろBiwako 代表理事 橋本 竜二



性の多様性をあらかず言葉は日々変わっています。それだけ多様な性のあり方を、誰かに伝えることができる世の中になってきたのかなと嬉しい気持ちになります。おそらくみなさんがよく触れる言葉は、「LGBT」や「性的マイノリティ(性的少数者)」という言葉だと思います。日本では2015年の『渋谷区・世田谷区パートナーシップ条例』のスタート以降、各種メディアで取り上げられることがどんどん増えていきました。全国の自治体に人権課題として広く浸透し始めたのも、この頃からと言っても良いでしょう。

性に関して少数派の人たちは、多数派の人たちと何が違うのでしょうか。自分たちと“そうでない人たち、”というように、何か別の存在のように感じてしまう方も多いのではないのでしょうか。健常者と障害者といったテーマでも同じような構造になっているように感じる場合があります。しかし、私たちはすでに同じ社会で生きているもの同士です。特別に捉える必要はないと思います。一方で、生きづらさを感じている人がたくさんいるこ

とも確かです。そんなことを頭の片隅におきつつ、まずは基本的な言葉の意味を確認してもらえればと思います。

今回は当団体でも取り組んでいる「『居場所』って?」というテーマでお届けします。

すでに同じ社会に生きている

- L** レズビアン。女性として女性を好きになる人
- G** ゲイ。男性として男性を好きになる人
- B** バイセクシュアル。異性を好きになることもあれば同性を好きになることもある人
- T** トランスジェンダー。生まれた時に割り当てられる性別と自認の性別に違和感がある人
- Q** クエスチョニング。自認の性別や好きになる性別を定めていない人
- +** プラス。上記以外の多様な性

▼性を構成する要素

- 生まれの性別: 生まれた時に割り当てられる性別
- 性自認: 自分の性別をどう認識しているか
- 性的指向: 好きになる相手の性別
 - ※人を好きにならない人もいます
- 性表現: 見た目の「女らしさ」「男らしさ」